

F-14 栄養家計簿における食品購入状況について

女子栄養大 ○小林淑子 川村玲子 香川 綾

目的 さきに漁府らは、栄養家計簿における標準食費の算定について報告した。
今回は食費算定の基礎資料を得るために食品購入状況を調査し、日常、家庭ではどう
いう食品がどの位購入されているのか、その実態を調べたので報告する。

方法 昭和42年11月以来、家計簿をつけ続けている主婦を家計簿モニターとし、毎
日の食品購入量と費用を記録した栄養家計簿を提出させている。昭和47年のモニター
報告（67世帯）から、今回は魚介類と野菜類について検討した。

結果 魚介類では、若干の魚、貝に変動はあるが、季節による違いはほとんどみら
れない。生鮮、塩干、加工のタイプ別購入量をみると、それぞれ62%、16%、22%の
割合であり、昭和44年と比較すると、生鮮魚貝が減少し、逆に加工魚貝の増加傾向が
みられる。特にかまぼこ、ちくわなど練製品が大きく伸びており、購入量、普及度と
ともに高率を示している。